

帰巢意志ト特有ノ極メテ鋭敏ナル方向感ヲ有シ且ツ
頗ル習慣性ニ富ミ性質ヲ有スル夜間帰巢養成ニ要旨
特ニ之等ノ特性ヲ利用シ人爲的ニ漸次習慣性ノ変化ヲ
誘發シ遂ニ不知不識ニ間ニ夜間帰巢ノ習慣性ヲ作
爲スルアリ故ニ之ノ実施ニ當リテ能ク其ノ要點ヲ捕捉
シ適切ナル計畫ヲ下シ氣味ニ晝夜不斷ノ努力力ヲ惜マ
ズ之ニ當ルヲ要ス

第三章 夜間活動意志誘起

鳩(夜間訓練ヲ施サルモノ)ニ夜間活動意志ヲ缺クモノ
次ノ實驗ニ依リテ想像スルモノヲ得ルニ

一日没後一時間以上ヲ経過シタル頃鳩舎ニ入リ巢房
内ニ休養中ノ鳩ヲ引出サレトスルモノ中々止ム也又其ノ反
抗ノ意志表出ハ晝間ニ比シ一層強烈ナリ

海軍

昭和八年七月 大倉納

只右ノ場合無理之ヲ含外、持出し到着の上、放ツニ
 多ク、場合飛び立タズ（晝間ナレバ殆ント飛立ツ）
 之ヲ強制シテ飛び立タシメントスレハ概ネ羽音烈シク
 ハタクト飛び出チテ直チ低所轉落其位置ニ蹲居ス
 ハ前項ノ鳩ヲ約百米突降リタル地点ニ持出し放鳩
 （特ニ上方ノ放鳩）スル大部ハ烈シク羽音ヲ立チ飛び
 立チ鳩舎及其附近ノ樹ニ棲ルカ或ハ棲リ得ズレテ
 轉落シ其後附近ニ蹲居ス而シテ他ノ一部ハ飛び
 立ツトナリ附近ニ降落其後蹲居ス
 ハ前項ト同イ状況、放チ二軒ノ距離ヲ放鳩（方法
 前項ノ準ニ）スレハ一部ハ鳩舎方向ニ向テ飛び立チ鳩舎
 屋上及其附近ノ樹ニ棲リ大部ハ飛び立タズレテ附近ニ
 降落シ其後蹲居ス

海軍

昭和八年七月 大倉納

亦同一状況に於て約十軒の地点より放鳩を二羽を帰
巢せしむ

（前諸項に於て一旦降着を鳩に自發的に再び飛び
出せしむる強引ト稀ナリ

(註)

（一）本実験は二三歳鳩に就て実施せしむ

（二）帰巢せしむる鳩に特ニ事故を阻む翌早朝帰巢ス
ルヲ例トス

（三）鳩舎位置、天候、明暗度等、状況に依り結果に
多少ノ差異を生ズ

（四）多少ナリトモ薄暮訓練ヲ課レアル鳩にアリテ、全々
其趣キヲ異ニス

前述ノ状況に依り之ヲ見テ晝間鳩に夜間より多數軒に近

距離に於ては完全な帰巢を以て困難（稀に帰巢する）
 トルを容易に（金と云ふ）ト結論に到達する。其
 原因は主として夜間活動意志の缺如、アルト推断ス
 故に夜間鳩養成に當りて先づ夜間活動意志の誘起
 に着目する。要之、第一ノ手段として暗夜に對スル
 怖氣ヲ除去せん。又カラス然レドモ急速に之ヲ強ヒン
 トセバ反テ恐怖心ヲ増大セシメ反對の結果ヲ招来ス
 ル。惧アルヲ以テ先ヅ日出日没時附近ヲ

察せしむ

第一夜間展望（鳩ヲ展望台上に出シ附近ヲ觀

第二夜間展望（飛翔ノ課レ漸ク之に慣ル）に従ヒ

第三夜間展望（訓練ヲ行フ）必ズ漸進的ナ

ルヲ要ス

海軍

昭和八年七月 大倉納

即ち夜間金針飛翔ヲ行ハ場合ハ其前日迄ハ少ナク
 一時間以上前進先夜間展望ノ訓練ヲ終了シテ
 ルヲ要シ設備訓練ニ於テモ之ト同意味ニテ前日中
 迄ハ一時間前進先金針飛翔訓練ヲ完了シタルヲ
 要ス

又深夜訓練ハ先次テ月明期ニ於テ施行シ漸次暗
 夜ニ及ボス如ク實施スルヲ要ス

斯ノ如クストキハ夜間ニ對シ恐怖心ヲ去リ漸次
 活動意志ヲ増大シ遂ニ習慣性ヲ成スルニ至ルナリ

第四節 夜間飛行ノ方向判定勸養

鳩ノ方向判定ノ根據ニ就テ種々ノ論說見ルモ卓越セ
 ル肉眼視力並發達先覺覺的記憶力及優秀ナル
 判断力等ハ其主因タルヲ前章ハ鳩ノ帰巢性ニ於テ

詳述を處たり。卓越なる肉眼視力、夜間ノ方向判定
 〃於テモ晝間同様極メテ重要ナル地位ヲ占ムモノナレドモ
 生来活動性^性ヲ晝間ハミテ保持せられル鳩が最初ヨリ
 之ヲ克クスル能ハサルヤ勿論ナリ故ニ之ヲ勵養訓練ニ
 當リテ、常ニ易ク難キニ近ヨリ遠ニト漸ク進ヒ決シテ一
 拳ニ無理ノ注文ヲ強フルベカラズ而レテ鳩ニ晝夜ヲ通ジテ
 努メテ多クノ練習機會ヲ與ヘ以テ日中の確ニ地物ヲ
 觀察せしメント共ニ一面暗ク透シテ茫然ト浮キ出ヅル物
 体、及日中ノ影ガミテ現ハサズ市街、村落、海岸、(漁船)
 等ノ燈光又ニ之等ノ光芒ヲ認識せしメント如何ノ位置
 ナルカヲ判断記憶せしメント肝要ナリ
 (四) 実施事項、訓練法、於テ詳述ス

第五節 施設

二 鳩舎位置

高標周囲用噴煙用繩、ミレテ保健に適シ金外飛翔
 及帰巢等障害ナラ且一燈光等影響少キ場所ヲ
 可トス

註一 燈光、影響大ナルトキ、鳩舎ヲ飛出タル際眩惑作
 用ヲ起シ飛翔ヲ障害ス

二 架空線ハ鳩ノ運動飛翔ノ障害トナリ死傷鳩ヲ出ス慎マリ
 二鳩舎（第一、二、三、四図参照）

ハ採光換氣装置間ニ特別ノ考慮ヲ要ス

南東面（太陽面）ニ面積豊（富）ナル硝子窓ヲ設テ採光
 ニ便ス

コレ夜間鳩舎ハ明暗装置ヲ用ヒテ晝間一部光線
 シ遮蔽スルコトアルヲ以テ之ヲ補ヘルガタメ晝間鳩舎ニ比シ

海軍

昭和八年七月 大倉納

一般豐富な採光装置ヲ要求スルモノナリ

換氣装置ニ於テモ右ノ同様ニ充分考慮シテ設備
スルヲ要ス

只鳩室側ハ鳩舎控室(事務用机並就寝装置ヲ有ス)ヲ
設ケ鳩ノ觀察ト夜間見張ニ備フ

ハ鳩室内ハ或ルベク簡單整正ニシテ散步台豐富ニ
シテ全鳩ノ休養ニ適スベク巢房ハ雖ノ育成ニ支障ナ
キ程度ニ小型トナシ下方ニ局限シ次ニ夜間ニ於ケル鳩
ノ運動ニ便ナシム

(註)

(一)夜間鳩舎ニ於テハ晝間鳩舎同様ノ暑熱ヲ行フ
モノハ困難ナリ

コレ暑熱ニ起因スル親鳩ノ疲勞ヲ懸念スレバナリ

海軍

昭和八年七月 大倉納

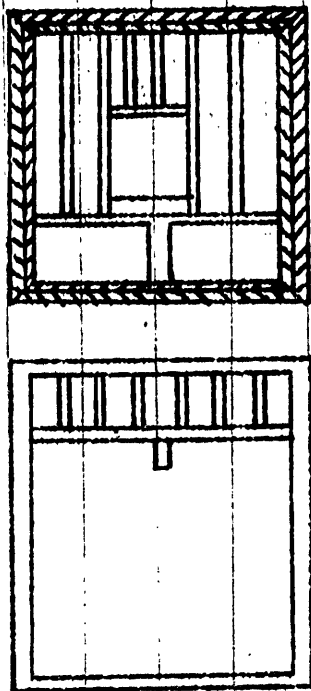
故に蕃殖ハ大凡第一回ノ難ノ果立ヲ以テ打切ル如ク
實施スルヲ要ス

ニ果房ハ蕃殖期間ノ教養備シ此ノ期間ヲ過グレハ前廊
(果房正而ノ廊)ヲ除去スルカ或ハ回轉式ニヨリ左図
ノ如ク上方ニ回轉シ夜間ニ於ケル鳩ノ出入ニ便ナラシム

回轉式(果房)

イ蕃殖中

ロ(前廊ノ奥ニ回轉ス)



二、鳩室内之電燈設備ヲ要ス

夜間給餌、飲水、捕鳩、觀察、點検又ハ入舎鳩ヲ
シテ棲息所ニ就カシムルタメ電燈設備ヲ必要トス
コノ電燈ハ燭力ノ相異ナルニ燈（一ヲ二燭一ヲ八燭トス
ルカ如シ）ヲ用ヒ必要ノ向ニ夫々點燈シ得ル如クナ
スヲ要ス

（註）採食、捕鳩、點検等必要アル場合ノ外成ル可ク低
燭ノ電燈ヲ用フルヲ可トス蓋シ皎々タル燈光ハ
鳩ノ安眠ヲ害スル慮アレハナリ

三、明暗裝置ヲ設備スベシ

晝間室内ヲ明暗自在ナラシムル為明暗裝置ヲ設ク
コノ裝置ハ夜間鳩舎獨特ノモノニシテ之ヲ鳩舎内外
側何レニ裝備スルモ敢テ差支ナキモ取扱上一部ハ

内側一部ハ外側ニ装置スルヲ便利トス

明暗装置ノ効用ハ晝間必要ニ應ジ之ヲ用レテ夜間ニ
擬シ鳩ニ休養ヲ與フルニアリ故ニ晝間暗黒化ノミニ擬ハレ
通風換氣ヲ忽ニスルヲアラバ其効果ヲ低下スルノミナラズ
時ニ之カ為メ甚ダシク健康上ノ障害ヲ招クストアリ故
ニ本装置ハ之ヲ閉シタルトキト雖モ充分通風換氣ノ道
ヲ講グルヲ要ス

以上ノ見地ヨリ本装置ハ鏝窓式トナヌヲ最適良ナリトス
又本装置ヲ用ヒタル際ノ明暗度ハ深ク懸念スルヲ要セズ
概ネ薄暗程度ニテ可ナリ(但シ光線ノ直射ヲ防クヲ要ス)
要ハ外部ヨリノ刺戟ヲ防ギ鳩ニ休養ヲ與ヘ得ルハ足レリ
トス若シ夫レ暗黒界其モ之ヲ對スル慣習ハ取テ之ヲ晝間
ニ求ルニ要ナク日々晝夜ト來ル夜間ヲ利用スレバ事足レリトス

海軍

昭和八年七月 大倉納

へ鳩舎外部に成ルべく突出物ヲ除去スベシ

是レ暗夜に於ケル衝突ヲ防ぎ鳩後着ヲ安カシムルタメナリ

ト到着台に大型ノモノヲ設備スベシ

鳩舎鳩ノ大部(殆ト全部)ハ屋上ニ降ルナク直接到着台

上ニ降着セシムコレハ舎ノ巧妙ヲ促スノミナズ到着台

上ニ室内ノ燈光反映シテ鳩ノ降着モ容易ナレバナリ

天トラツクハ夜間之に鳩ヲ導キ易カラシムルタメ其ハ外方到着

台上左右両斜前之傾斜大ナル箱式縦板(上部に鳩棲ル

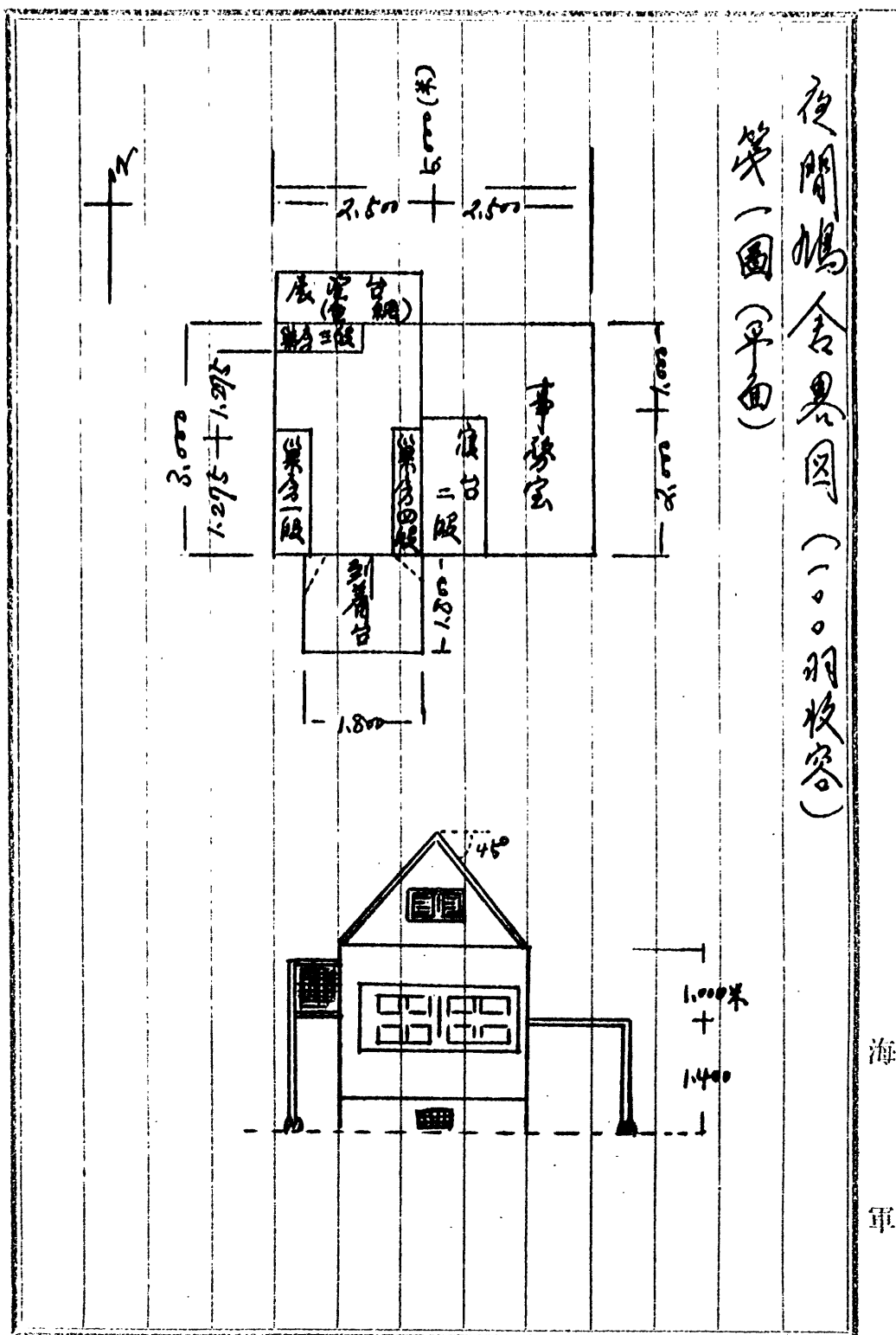
ヲ許サズ)ヲ以テ之ヲ圍ミ且つ成レ得レハ電鐘装置ヲ施シ

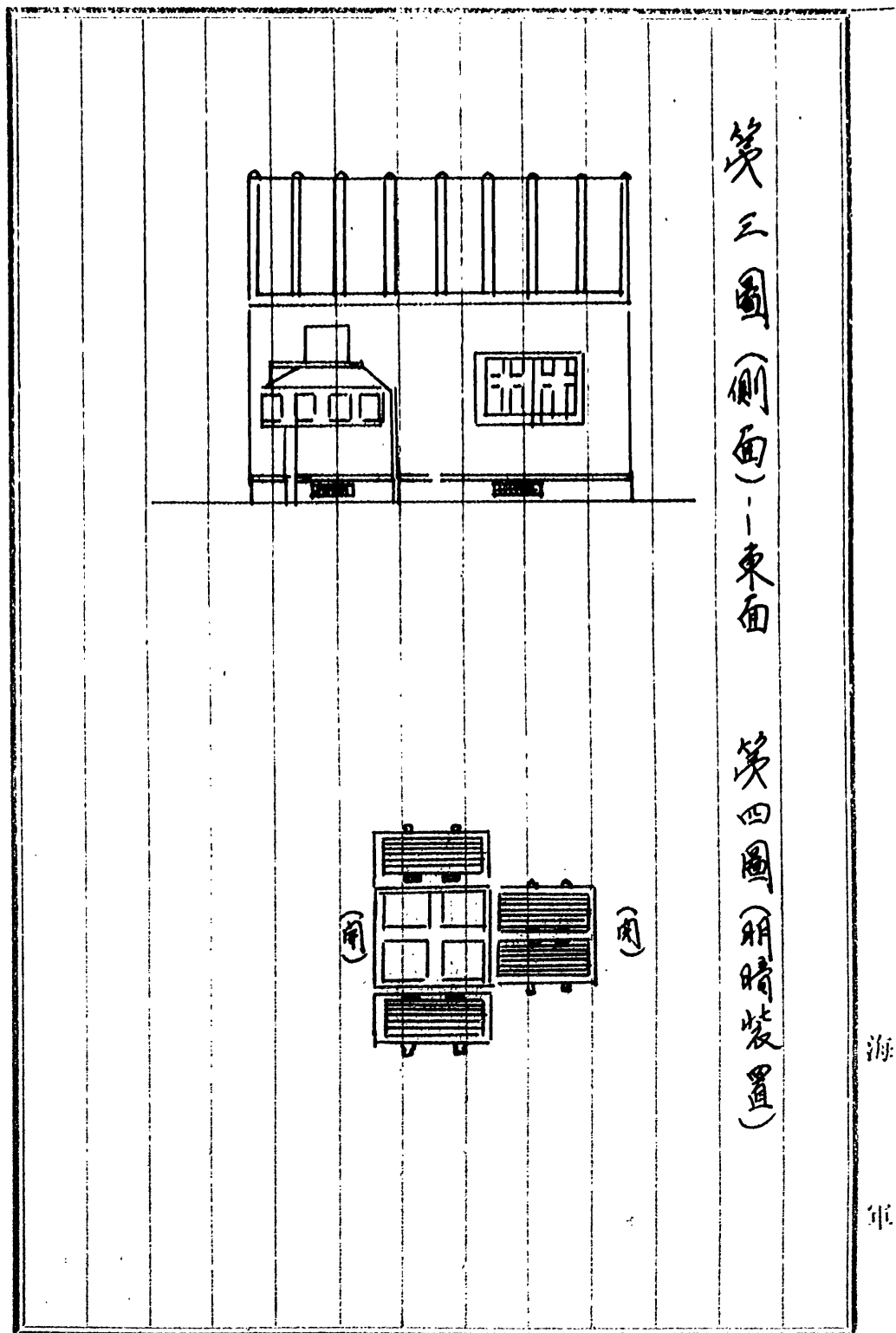
之ヲ鳩兵控所ニ導クヲ可トス

鳩舎外部に夜間最も發見シ易キ塗色ヲ施スヲ要ス

到着台上面にアリテ殊ニ然リトス

其他ノ諸装置ハ一般鳩舎ニ準ズ





海

軍

昭和八年七月 大倉納

海

軍

昭和八年七月 大倉納

第六節 訓練

第一期基礎訓練（暮曉飛翔訓練）

不用始時機

春季（四五月頃）ヲ最好時機トス

但レ状況ニテ何時ヲモ実施スルコトヲ得

口 移植鳩

生後六ヶ月ノ幼鳩ヲ最適當トス。生後六ヶ月以上ニ
 歳鳩附近迄ハ能ク夜間鳩ヲラレ得ルモ別致ク多クノ
 日時ヲ要シ且ニ歳鳩以上ハ夜間鳩トシテ使用年
 限ニ乏レキヲ以テ適當ナラズ

実験上既訓練鳩ノ夜間帰巢成績ノ比較ハニ
 歳鳩最モ優レニ歳鳩之次ギ幼鳩（六ヶ月以上夜間
 訓練ヲ施スル）ハ三歳鳩ニ劣リ而シテ四歳以上ノ鳩ハ

海軍

昭和八年七月 大倉納

夜間鳩トシテ体力上過重ナル負荷ニ適セサルミナス。實際に其残存スルモノ甚だ僅少ナリ。故ニ四歳以上ノ夜間鳩ハ之ヲ晝間鳩舎ニ移殖シ専ラ種鳩トシテ使用スルヲ得。第トス蓋シ此ノ鳩ハ數年ニ亘リ能力數百回ノ晝夜放鳩ニ耐ヘ能力卓越セン貴重ナル鳩ナレバナリ。

(註)

(一) 最初鳩ヲ移殖スルニ當リテハ不適鳩(主トシテ健康上)淘汰ヲ見越シテ約ニ割ヲ増殖スルヲ可トス。

(二) 夜間鳩ハスポーツマンシ、如ク特ニ發刺タル意氣ト頑強ナル体力ヲ必要トスルモノニシテ從テ自ラ年齡ニ制限ヲ付スルヲ免カレザルナリ。

(三) 昭和八年十一月横防飼育中ニ當年ニ歳ノ夜間鳩(主BMニ四號雄、昭和五年六月生)ニ就テ飛翔記録ヲ

調査セル、夜間放鳩ノミニテモ一八回、此延距離ニ四八九
 料ニ達セリ、更ニ晝間放鳩ヲ加フルトキ、一層大ナル数
 字ヲ示スベク之ニ依テ見ルモ、夜間鳩ガ一般晝間鳩
 ニ比シ如何ニ過重ナル負荷ニ耐ヘツ、アルカヲ想像
 シ得ベク、從テ四歳以上ノ夜間鳩ノ残存スルモノ極メ
 テ僅少ニシテ且ツ貴重ナル亦宜ナリト云フベシ

ハ別致

(一) 移殖後直チニ別致ニ着手ス

(二) 別致中ハ努メテ鳩ヲ舍内ニ慣レシムルト共、又一定時間

(午前午後各一回、時間乃至二時間宛) 鳩ヲ展望台上ニ出
 レ舍外ヲ觀察セシム

(註)

ハ最初ヨリ自由展望ヲ行ヒタル場合ト雖一定時間

強制シテ展望訓練ヲ行フヲ要ス

(四)到着台上ニ展望装置ヲ施シタル場合ハ呼込ヲ利用シテトラップニ通過ノ訓練ヲ行フベシ

(三)別致日数ハ巣立後ノ経過日数鳩舎位置、鳩舎施設、鳩ノ素質、取扱者ノ技術等ノ差異ニヨリ一定セザルモ通例幼鳩(但巣立後四月以内ノモノ)ナラバ数日又ハ永クモ十数日ニテ完成スルモノナリ

成鳩ニアリテハ少クモ四週間以上ノ日子ヲ要スベシ別致日数十日以上ニ至ルトキハ展望訓練時刻ヲ漸次日出没時ニ近接シテ行フヲ要ス

ニ出舎(晝及日出没時附近ニ施行)

出舎ハ別致完成セリヤ否ヤヲ試験スルタメニ行フ訓練ニシテ又之ニ依リ地物ヲ稍々精密ニ觀察セシメ

別致、一層確實性ヲ與フルモノニシテ、舍外飛翔ト混同
セラルヲ要ス。舍外飛翔ハ鳩ノ飛翔ヲ強要スルモ、出金
アリテハ特別ノ場合ヲ除キ、飛翔ヲ強要セズ、其行動
關レテハ特別ノ支障ナキ限リ、鳩ノ自由意志ニ任スルナリ
ホ、舍外飛翔（早朝、晝及初夜施行）

（一）飛翔力ニ應ジテ強制（初期ハ、優シク次第ニ嚴シク
シテ飛翔セシム

（二）飛翔力極メテ幼稚ナル鳩ニ對シテハ、到着台上ニ於テ
數回休憩セシムル如ク實施スルヲ要ス

（三）早朝及初夜實施スルハ、舍外飛翔ハ最初日出三十
分前及日没時附近ヲ開始シ、尔後概テ四五日ヲ
経過スル毎ニ開始時刻ヲ變更（暮曉共ニ約十時間
宛正子ニ向テ進行ス）ニ同時ニ漸次飛翔時間ヲ

海軍

昭和八年七月 大倉納

延長し本訓練(金外飛翔)開始後凡二十五日ニテ概
 本日出(時間半)前ヨリ及日没(時間後)何レモ五十
 分間集團ヨリ鳩舎上空ヲ廻飛翔ヲ得ルニ至ルトス
 (註)夜間金外飛翔ヲ實施スルニ當リハ鳩ノ夜間活動
 意識ヲ喚起スルメ金外飛翔時刻ヲ一歩(或少モ一
 時間以上)前進セル夜間展望訓練ヲ完了シタルヲ

要ス

へ放鳩訓練

(一)鳩が漸次飛翔力ヲ獲得シ二十分間以上金外飛翔
 ヲ繼續シ得ルニ至ルハ放鳩訓練ヲ開始ス

(二)放鳩訓練ハ午前午後何レノ時機ニ於テ實施スルモ
 妨ゲナシト雖モ又隨時日出没ニ近接シテ實施スルヲ
 要ス

海軍

昭和八年七月 大倉納

體カ上夜間飛行トシテ不適ト認メルモ、隨時淘汰ス

第二期 延伸訓練

一 夜間放鳩訓練

第一期基礎訓練終了後、引き続き行フ訓練ニシテ鳩ノ不知
不識ノ間、夜間活動意識ヲ與ヘ且夜間ニ放ケル方向
判定、返帰、還飛翔ヲ容易ナシメ以テ翌朝帰舍ノ惡習
慣ヲ附セザルカタメ特ニ次ノ諸点ニ注意ヲ要ス
一 地物觀察ノ記憶

夜間放鳩當日若クハ數日前ニ放テ夜間放鳩地點若
クハ同方向ヨリ晝間放鳩ヲナシ地物ヲ精密ニ觀察
記憶セシムルヲ要ス

例、左圖ニ放テAヲ鳩舎トシCヲ夜間放鳩地點トシ其當日
又數日前放テB、C、D、E何カニ放テ晝間放鳩ヲ行フカ如シ

海軍

昭和八年七月 大倉納

但レ訓練進展スルに従ヒ右ノ訓練ヲ省思スルコトヲ得此場
合ニ於テモ鵬ニ夜間放鳩地点附近地物精密ニ記憶シ居ルヲ
要ス

只放鳩時刻

- (一) 第一面八日没十五分乃至三十分後(天候地勢等ヨリ斟酌
的ニ)頃トシ以後帰巢成績ヨリ適宜放鳩時刻ヲ変更ス
- (二) 前節(夜間ニ於ケル方向感ノ勵發未現)ニ於テ述ベタル如ク
晝間ニ隻影ヲ留メ又遠近ノ光芒燈光等ニ夜間ニ於
ケル方向判定上重要ノ意義ヲ有スルモノナルヲ以テ常ニ
之等ニ對スル認識ヲ充カナラシムル爲メ夜間放鳩訓練ハ勵行ヲ
必要トス又有事ニ對スル訓練トシテ燈光管制時ヲ
利用シテ訓練ヲ施行スルヲ要ス

(三) 燈火管制時、於チモ熟地、アリテハ相當ノ歸巢ニ得
ルモノナリ 横防ニ於チ、二十軒附近、多ク十以上帰巢
セシメタル实例、乏シカラズ

(四) 深夜放鳩訓練ハ先以テ月夜ニ於テ行ヒ次第ニ
暗夜ニ及ボス如ク実施スルヲ要ス

(五) 兼天時ニ於ケル夜間放鳩ハ歸巢困難ナルヲ以テ
考慮ヲ要ス

ハ、放鳩法

(一) 初期ニ於テハ、努メテ各個放鳩ヲナシ訓練進行スルニ
從ヒ、各個又ハ集團放鳩ノ何レニヨルモ可ナリ

(二) 放鳩位置ハ成ル可ク燈光ノ影郷ヲキ處ヲ選定
スベシ又訓練上特ニ必要ナル場合ノ外障害物下
ノ放鳩ヲ避クルモノトス

(三) 暗夜放鳩にアリテハ鳩ヲ握リテ上方ニ放鳩スルヲ可トス
ニ放鳩躍進度

放鳩躍進ニ當リテ從來ノ放鳩成績ヲ調査參考トシ
且ツ時機放鳩時刻、地勢、天候、明暗度等ヲ考慮シテ
適宜按配概テ次標準ニ依リ漸次躍進スルヲ可トス

(一) 晝間放鳩 晝間ニ三、五、七、一〇、一五、二〇、二五、三〇、四〇、五〇、
六五、八〇、一〇〇 (以下晝間放鳩同ジ)

(二) 夜間放鳩 一、二、三、五、七、一〇、一五、二〇、二五、三〇、四〇、五〇、
六〇、七〇、八〇、九〇、一〇〇

夜間放鳩ノ訓練ニ於テ晝夜共に放鳩躍進度ヲ著シク
縮小セシメ特ニ地物(燈光)ヲ精密ニ觀察記憶セシメ
夜間帰巢ニ支障ナカラシメンガ為ナリ

ニ明暗装置使用法

海軍

昭和八年七月 大倉納

不第二期訓練開始ト共、明暗装置之依り毎日、日中、一部硝子窓ヲ閉鎖シ、塙室ヲ薄暗トナシ、塙ニ休養並ニ、明暗装置使用期間ハ季節節氣溫ノ高低及夜間訓練程度等ニテ差異スルモ概ネ左記ニ據ル

春秋季 正午前後トシ二時間乃至三時間

夏季 朝夕ノ涼シキ時機ヲ選ミテ一時間乃至三時間

冬季 適宜ノ時機ニ於テ一時間乃至二時間

ハ明暗装置ハ之ヲ外部ヨリ刺戟ヲ防ギ、塙ニ休養ヲ其フルヲ目的トスルヲ以テ使用時機及使用时間ニ對シテハ特ニ深甚ニ考慮ヲ要ス。殊ニ酷暑季ハ即ち於テ之ヲ使用シテ及テ塙ニ若痛ヲ與フルカ如キコトナキ標特ニ注意ヲ要ス

三、明暗度記録

海軍

昭和八年七月 大倉納

明暗度ト歸算成績トハ密接ノ關係アルヲ以テ夜間
放鳩際ハ必ズ明暗度ヲ觀察シ之ヲ記録スルヲ要ス
明暗度ハ計測器ニヨリテ計測スルヲ理想トスルモ現在ニ於テ
ハ肉眼ヲ以テ觀察シ概テ如ク区入カス

ハ月明ト暗夜トヲ示スタメ先明ト暗トハ分チ更ニ之ヲ各三等
分シ其程度ヲ表ス即チ明暗共ニ最大ヲ三トシ最小ヲ一トス

只明暗度ヲ表ス数字ハ單ニ月齡ニ依ルナク天候ノ
模様亦其ノ實際ノ明ルサ暗サヲ觀察シ之ヲ表ハス

即チ月齡三―五附近ハ天候良好ナレバ明一ナルモ満天黒
雲ニ蔽ハルカ又ハ降雨ノ際等ハ暗一―暗二トナルカ

如シ

(例)

月齡	明暗度	天候	月齡	明暗度	天候
----	-----	----	----	-----	----

備考 明暗度、放鳩多入念迄、平均ヲ記録スルモトス					
四 障碍物避行訓練					
障碍物避行練習目的ヲ以テ晝間(漸次薄暮未明、及未久)時々架空線其他障碍物下放鳩訓練ヲ実施スルヲ可トス、					
本訓練、最初、樹枝下又、柱ノ下簡單ナル架空線下等ヲ行ヒ漸次複雑ナル架空線下放鳩及未久トス					
海軍					
昭和八年七月 大倉納					
○					
明二 明三 明一 明二 暗一 明一					
曇 晴 曇 晴 曇 晴					
ニ + 明 月					
暗三 暗二 暗一					
曇 曇 晴					
満天暗黒					

五、荒天訓練

訓練進行スルニ從ヒ小雨・雷・強風時等に於テ晝間舍
外飛翔ヲ行ヒ次テ放鳩訓練ニ及ボシ鳩ノ抵抗力ヲ涵養
スルト共ニ帰巢性ヲ助長セシム

本訓練ハ最初ヨリ長時間ヲ課スルナク漸進的ニ実施ス
ルヲ要ス

六、夜間給餌

夜間活動性ヲ誘起スル為給餌ニ都シ夜間ニ給ス
給餌時刻ハ概シ午後七時ヨリ同九時ノ間ニ於テ日量ノ
1/3—1/5ヲ適當トス

第三期番殖並保能訓練

ハ第二期訓練ハ大凡十一月末ヲ以テ之ヲ終リ十二月至ハ
番殖準備ニ移リ他鳩舎ニ先シテ交配ヲ行ヒ育雛ハ一

海軍

昭和八年七月 大倉納

番仔、巢立、以テ切上ケルヲ可トス。是レ夜間鳩、晝夜共
 活動シ強ヒテ晝間鳩ニ比シ負荷一層大ナルヲ以テ之カ後
 和策トシ繁殖ヲ制限シテ繁殖ヲ来レ疲勞ヲ軽減セカ爲ナリ
 只夜間鳩ノ鳩雄ハ離期間ハ晝間鳩ニ比シ稍短縮スルヲ
 得。是レ繁殖制限ヲ来ル生殖慾保持ノ利用ニ因ルナリ
 通例約二週間ノ雌雄ハ離ヲ以テ交配効果ヲ收メ居レリ
 ハ成鳩ヲ補充シテ夜間鳩ヲラシメントスル場合ハ交配時ヲ利
 用スルヲ最適當トス

ニ夜間鳩ヲシテ特ニ早期ニ交配ヲ行フ所以ハ繁殖ヲ早メ
 翌年度ノ訓練開始時ニ於テ離ハ已ニ巢立セシメ親鳩
 ハ体力ヲ恢復スル状態ニラシメントスル晝間鳩合ハ同時交配ヲ
 避ケ日常ハ通信ト支障ナカレメレガ爲ナリ故ニ飼育地ノ
 氣候其他ノ情況ニ依リテハ自ら繁殖時機ニ差異アルヲトス

海軍

昭和八年七月 大倉納

本養成期間に於ては出来得る限り晝夜間全外飛翔（夜間全外飛翔）際現に抱印中、鳩ヲ追ヒ立テサル様注意ヲ要ス。茲故鳩訓練ヲ課シ以テ能力保持ヲ努力ハルモノトス。又他、情況に依リ全外訓練課ス不能ナル場合ハ夜間必ズ一回鳩室内ニ入リ必要ニ應ジ鳩ヲ一羽宛引出シテ教歩台ニ放テ覺醒ヲ與ヘ夜間活動意識ヲ喚起スルヲ要ス。

第七節 従事員ノ努力ト其結果

夜間鳩訓練ハ晝夜晝夜通ジ連續不斷ニ実施シタルコトヲサレバ効果ヲ收メ難レ故ニ従事員ノ苦心努力ハ誠ニ想像以上ニシテ其心持ハ恰モ赤子ヲ抱ク慈母心理ニモ似テ實ニ四六時中鳩養ハ具氣消スル暇ナク鳩ト起臥ヲ共にシ飼育管理ノ責ニ任スルモノナリ。

海軍

昭和八年七月 大倉納

斯ノ如ク夜間鳩養成訓練ニ之ニ要スル設備、智識及從事員ノ甚大ナル努力ヲ要スルモノナルモ其代償トシテ訓練前途一步モ夜間活動シ得ザリシ鳩が暗夜ニ海越エ山越ヘテ帰巢スルニ至リシトキ、純ニサハ獨リ体験者ノ味ニ得ルモノナリ
 近時夜間鳩ノ養成ハ我海軍々鳩飼育部隊ノ大部ニ負リ實施ヲ見日ト共ニ其實用化セラルニ至リシトハ實ニ鳩通信上革命的進歩ニシテ誠ニ同僚ノ至リナリ
 尚夜間鳩養成ニ關スル研究記事ハ我海軍ニ於テ多年實驗研究ノ結果求メ得タルモノニシテ使鳩術上極メテ貴重ノ資料ナリトシ茲ニ附記ス

附

夜間鳩訓練計畫例

昭和九年四月一日

横須賀防備隊司令

左記に依り軍鳩訓練ヲ施行ス

第一晝間鳩訓練実施計畫——省畧

第二夜間鳩訓練実施計畫

一目的

- (一) 省料以內晝間通信並省料以內夜間通信鳩養成
- (二) 軍鳩員に對する夜間鳩養成法實地教育
- (三) 軍鳩能力向上

二鳩舎

鳩数

約一〇〇羽(成幼鳩)

三期間

第一期 自四月中旬 至五月上旬

海

軍

昭和八年七月 大倉納

基礎訓練(主トシ幼鳩ニ課ス)									
第二期 自五月中旬 至十一月下旬									
延伸訓練									
第三期 自十一月上旬 至三月下旬									
保能訓練									
四、訓練実施要領(別表第五參照)									
月	日	日	日	日	日	日	日	日	日
1	4	18	3	5	訓致完成	朝	晝	夜	記事
2	19	6	金外飛翔	同上	同上	朝	晝	夕	各了宛
3	20	7	自日午前	十人乃至午前	自日午後	十人後			
4	21	8	自日午前	十人乃至午前	自日午後	十人後			
5	22	9							
6	23	10							

海軍

昭和八年七月 大倉納

海軍

昭和八年七月 大倉納

第二期 延伸訓練					海軍	
月	旬	朝	晝	夜	記事	
五	中	自日出時至午前 至日出十分前	一時間 至午後三時	自午後三時至 至日没時	朝晝夜各々 記	日中 至午後三時
五	下	舍外飛翔	同上	同上	暗装置 至午後三時	同上
六	上	自日出時至午前 一時間	一時間 至午後三時	自午後三時至 至日没時	休養 至午後三時	同上
	中	外飛翔	同上	同上	同上	同上
六	下	自日出時至午前 一時間十五分	至午後三時 至午後三時	同上	同上	同上
	上	舍外飛翔	同上	同上	同上	同上
七	中	自日出時至午前 至午前	一時間 至午後三時	同上	同上	同上

海軍

昭和八年七月 大倉鶴

第三期 蕃殖並保能訓練

延伸訓練に於ケル成績ヲ審査シテ蕃殖に適スルモノヲ模擇シ
 十一月上旬雌雄分離ヲ行ヒ同月下旬交配シ蕃殖ニ移ル
 此期間中出来得ル限り晝夜同復習訓練ヲ行ヒ能力
 保持ニ努ム

(備考)

- (一) 海軍ニ協定研究計畫表ニ研究事項ノ研究ニ努ム
- (二) 海上飛翔ノ習性ヲ培養スルヲ晝間鳩ニ同じ
- (三) 強力鳩養成上晝間訓練相當荒々時ニ於テモ実施ス
- (四) 舊習訓練下ニ障礙物下ニ於ケル放鳩ヲ実施ス
- (五) 特ニ衛生ニ注意シ健康上晝間鳩トシテ不適ト認ムモノハ淘汰
 シ晝間鳩舎ニ編入ス
- (六) 晝間舎外飛翔ニ適著又黎明ヨリ各隊員ニ同ヲ進行スルヲ

ノル大午後十時及午前之時に達スル時ハ一夜に双方
 実施スルナラバ適宜交互に施行スルモノトス

海

軍

昭和八年七月 大倉納

海軍

昭和八年七月 大倉納

計 四 七 回	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	水	火	土	金	木	金	月	金	月	金	月
	NE.2	BC	BC	B	BC	B	BC	B	BC	BC	BC
	D	D	/	/	/	D	D	D	/	/	/
	/	/	2	/	/	2	/	2	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
海 軍	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又
	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又	又

昭和八年七月 大倉納

分速 一〇〇〇米以上	六回
同 五〇〇米以下	二二回
翌朝 帰舎	一回
不着	ナシ
使用鳩延数	一〇三羽
失踪鳩数	八羽
(註)晝夜同く同定鳩通信に訓練済ミヲ使用スルナリ	
失踪鳩は比較的少ナキナリ	
(訓練中に相當失踪鳩ヲ出ス、又ニ後多不良鳩ハ淘汰セラル)	

海軍

昭和八年七月 入倉納

第四章 強力鳩養成法

總則

通信鳩舎ニテハ他ノ蕃殖鳩舎、競翔鳩舎等ト異リ常ニ最良ノ歸巢スル鳩即チ天候其他ノ障害ニ對シ萬難ヲ排シ確實迅速ニ歸巢スル鳩ノ養成ニ努メザルベカラズ然レニ一般養成法ニ依リ養成セラル鳩ハ通信實施ニ當リ次ノ如キ缺陷アルニ管理者ノ痛感スル處ナリ

1. 天候ノ如何ニテリ歸巢成績ニ著シキ差異ヲ生ズ

即チ天候良好ニハ常ニ見事ナル成績ヲ以テ歸巢スル

優秀鳩モ一度不良ノ天候ニハ能力上差支ナキ程度ニ於テ

ニ遭遇セバ忽チニシテ頃日ノ歸巢成績ヲ復シ甚ダシキ人主リ

歸巢セズ

(主トシテ荒天ニ對スル恐怖心ニ因ル)

口放傷時刻、如何ニヨリ歸巢成績ニ差異ヲ生ズ

相當距離(概ネ五十軒以上)ニ於テ放傷シタル場合歸巢ニ
充分ノ餘裕時間ヲ有スル構ニ一般ニ午後ノ成績ハ午前ノ
レニ劣リ而シテ放傷距離ヲ増スカ或ハ放傷時刻ノ遅ルニ從ヒ
テ傾向一層顯著ナリ

但シ夜間放傷ハ晝間放傷ニ比シ其ノ程度ヲ減ズ

(主トシテ習慣性ニ因ルモ放傷ノ氣分モ亦影響スルガ如シ)

ハ折角歸着セルモ屢々入舎ニ少ナカラズ時間ヲ要ス

(傷舎構造、習慣、呼込法ノ未熟等ニ因ル)

強力傷養成法ハ右ノ缺陷ヲ補填シ通信傷ヲシテ又其價
値ヲ發揮セシムルヲ特種ノ訓練ヲ課スルモノニシテ晝間傷舎
夜間傷舎共ニ之ヲ適要スルモ此處ニ一般の養成法ニ對スル
説明ヲ省略シ單ニ強力傷養成上必要ナル特種事項ノミ

ヲ記述セリ、而シテ其ノ主要點ハ、鳩ノ抵抗力並活動意識ヲ増進シ常ニ熾烈ナル歸巢意志ヲ保持セシメ服從精神ヲ涵養シ以テ軍鳩南信ニ劃一的向上ヲ期セントスルアリ、之カ爲特ニ鳩舍衛生ニ注意シ訓練ニ總テ實際ノ情況ニ即應スル如ク案劃ニ直極度ニ鳩ノ習慣性ヲ利用スルヲ以テ之カ養成訓練ニ當リテハ管理者ハ鳩術ニ對シ相當ノ智識經驗ヲ必要トシ鳩ハ少ナクとも基礎訓練終了後ノモト使用シ以下述ブル處ノ方法ニ依リ實施スルヲ要ス

第一節 鳩舍

呼込入舍ニ便ナラシムル爲次、如キ構造ヲ必要トス(第一、二三圖參照)

一、屋根、勾配ヲ大(約四十五度)ニシ歸舍鳩ヲシテ絶對ニ屋根ニ棲ルヲ許サズ直接到着臺上ニ降着セシム

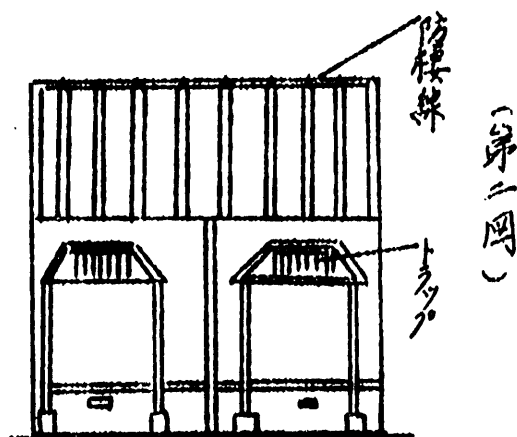
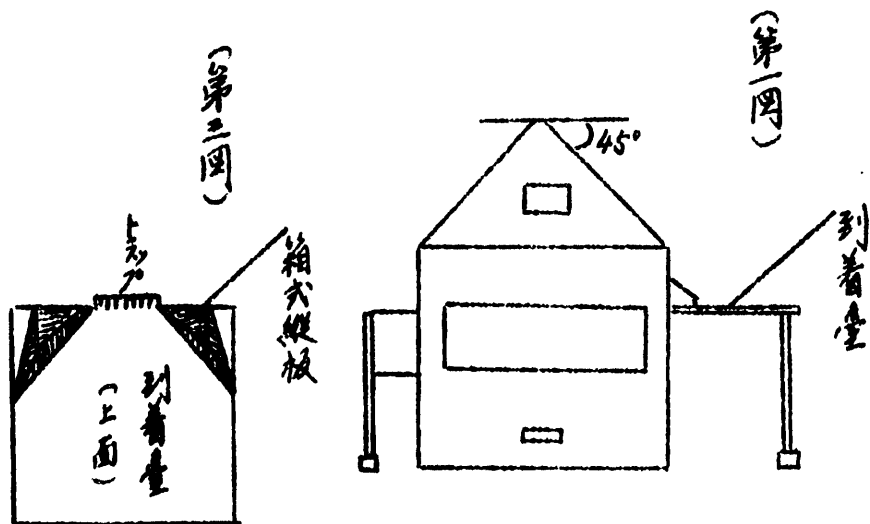
海軍

昭和八年七月 大倉純

尚屋根ノ頂部ニ針金ヲ以テ防棲線ヲ張ル可トス
 口到着臺ニ其ノ型ヲ擴大シ陸上固定鳩舎ニアリテハ長サ幅共一
 七米附近ノ最適當トシ鳩舎ノ種類、大小等ニヨリ適宜其
 ノ型ヲ彙配ス

ハトラップハ之ヲ導キ易カラレル為其ノ外方到着臺上
 左右兩斜前ニ傾斜大ニ箱式縱板(上部ニ鳩ノ棲ルヲ許
 サズ)ヲ備フ

尚鳩舎最衛生的ニシテ頑健ナル鳩ノ養成ニ適スル如ク設
 備スルヲ要ス、コレが為特ニ採光、換氣裝置ニ意ヲ注ギ且
 室内ニ於ケル鳩ノ休養、運動等ニ對シ深甚ノ考慮ヲ要ス



0746

第二節 飼糧

一 飼糧の配合

活動適スル爲、養成、目的トスルヲ以テ生理的要求ヲ充テ得ル範圍ニ於テ尙、最嗜好ニ適シ且熱量多ク飼糧ヲ選定シ次ノ配合ヲ標準トシ時機、氣候其ノ他ノ情況ニ依リ適宜按配ス

イ、白豌豆 四〇―五〇％（蕃殖期及夏季ニ多、冬季及活動期ニ少）

ロ、麻ノ實 二〇―五〇％（熱量富、飼糧ナルヲ以テ冬季及活動期ニ多、蕃殖期及夏季ニ少）

ハ、玉蜀黍 一〇―二〇％（蕃殖期ニ多、其他少）

ニ、玄米 嗜好食トシテ日々少量ヲ與フ

（註）白豌豆、玉蜀黍、玄米等ノ過量ニ依リ肥満ヲ招致シ活動